

ボランティア ジュニアスクール



★ タイムスケジュール ★


9:00~	受付・準備				
9:30~	開校・レクリエーション				
10:00~ 11:30	折り紙 4人	自具① 6人	点字 9人	手話 4人	朗読 4人
11:30~ 12:30	昼食				
12:30~ 14:00	盲導犬				
14:10~ 15:40	おはなし 4人	自具② 6人	会食会 10人	クラフト 7人	
15:40~ 16:10	交流会・振り返り				

★目的
子どもたちがボランティアを始めるきっかけ作りと、体験したボランティアをもっと楽しんでもらうため、子どもたちにボランティア体験を広げ、今後の活動につなげていく。

★実施日：平成23年2月20日(日)

★場所：市立公民館

★参加者：27人



ボランティアだより

編集・発行
大阪狭山市ボランティアセンター
☎ 367-6601

内容

「子どもたちにボランティアの楽しさを伝えたい。」そして、「ボランティアを始めるきっかけになるような体験の場をつくりたい。」そんな思いが寄せられたボランティアジュニアスクールが開催されました。

小学三年生から中学一年生までの受講生二十七人と、手話や点字をはじめとした講座担当ボランティア五十二人との交流レクリエーションで開講しました。

このレクリエーションが、ボランティアジュニアスクールを修了した高校生ボランティアによる指導だったことや、受講生にも二年三年と参加し続けていることもたちが増えてきていることなど、次世代へのつながりを感じることができた内容でした。

また、おはなしの会と、おりがみ倶楽部と一緒に、詩集「のはらうた」の世界を表現する活動、自具の講座では、丁寧に理論を伝えての実習など午前・午後を通してのプログラムにチャレンジしました。

つくしの会によるお菓子作りや、朗読ボランティアたんぼによる声のたよりの録音、盲導犬体験など、いろいろな体験をした子どもたちの感想からは、ボランティア活動を身近に感じてもらえたようです。



子どもたちの声

今日一日たのしかったですか??

*はい…全員

また参加してみたいですか??

*はい…全員

今日の感想!!

*手話がおもしろかったし、いろんな話ができると、耳の不自由な人に助かると思いました。またこんなのがあったらやりたいです。

*自具はいろいろ工夫していたのでびっくりしました。今日作ったストロースタンドうまくできなかったのでリベンジしたいです。



*点字はいろんなことを打って楽しかった!!お菓子作りは、最後に全員で食べてとてもおいしかったです。楽しかったです。とても楽しかったです。

*手話とお菓子作りをして、手話は知っているのもあったけど、知らない「お母さん」などを教えてもらって楽しかったしカルタもとても楽しかったです。お菓子作りでも、作ったことがないものばかりで難しかったです。それに後で食べてみると、とてもおいしかったです。二つとも、いい体験になったと思います。



*朗読はとても録音するのに緊張しました。お菓子作りはあまり作ったことがないので難しかったです。とくにカップケーキを作るのが難しかったです。おもしろかったのは、カップケーキのトッピングです。来年もいろんな体験をしたいです。

*自具のストローで何かを飲むときにつける自具作りが二回も失敗したので家で材料を買ってやってみようと思います。難しかったけど難しいことを簡単と言えるようにしたいな。

*中学生になっても来ようと思います。

*おはなしの時に緊張したけど楽しかった。また来たい。

新グループ紹介 さやまカンタービレ

さやまカンタービレは、今年二月に会員十五人で発足した音楽ボランティアのグループです。歌を主に高齢者施設を訪問して、皆さんと一緒に懐かしい歌、思い出の歌、童謡などを歌って、楽しい一時を過ごしていただければと思っております。

高齢者の方々の楽しそうな笑顔を拝見させていただくことで、私たちも喜びを感じ元気をいただくことができます。

まだまだボランティア活動は初心者の方やカンタービレですが、いろいろなところへ訪問させていただきます。毎月第二水曜日に定例会を開き、次回行うテーマに合った歌選びや準備など、意見を交わし、楽しく前向きに取り組んでいます。



歌が好き、歌うのが大好きという人、私たちと一緒に音楽ボランティアを始めませんか。興味のある人は左記へご連絡ください。

大阪狭山市
ボランティアセンター
村田(TEL 367-6601)



パピーウォーカー (子犬飼育ボランティア)を 大募集しています!!

盲導犬候補の子犬を、生後50日から約1歳になるまでの10ヶ月間、飼育していただくボランティアです。この間に子犬たちは、愛情をたっぷり注がれて、人との信頼関係を築くことや、社会のルールを学ぶことなど様々な経験をすることが重要になります。

パピーウォーカーをしていただくご家庭の条件は以下ようになります。

- 留守が少ない
 - 室内飼育が可能である
 - 車を持っている
 - 現在、犬を飼っていない方が望ましい(相談可)
 - ある程度の経済的負担が可能である(月額5000~8000円程度)
- ※ 必要な備品は貸与します



しつけや健康面に関しては、担当職員が訪問して、指導・相談を受けます。

お問い合わせ・お申込

社会福祉法人 日本ライトハウス盲導犬訓練所
〒585-0055
大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202
TEL 0721-72-0914
FAX 0721-72-0916
E-mail guidedog@lighthouse.or.jp



行ってきました

三月二十日(日)〜二十一日(月・祝)SAYAKAホールで開催。河内最大級の介護・福祉展で、介護なんでも相談や福祉用具の展示・体験・施設紹介コーナーもあり、多数の来場者がありました。

高齢者の疑似体験コーナーでは、白内障メガネ、手足に重り、肘、膝にマルチサポーターを装着して高齢者の筋力の衰えや視力の低下した状態を体験していました。車イス体験、自助具の展示もありミニ講座コーナーでは、音楽療法、認知症サポーター養成講座、在宅介護・リハビリ講座など「高齢になっても、住み慣れた地域で住み続けられるまち」をテーマにした状態を体験していました。

ハートケアフェスタ

今回は、東日本大震災被災地の復興に向かって「ごころをひとつに」をテーマに四月三十日(土)〜五月一日(日)に開催され、両日とも開会時にご冥福を祈り黙祷を捧げました。

初日、午後二時から龍神舞台では軽音楽、ダンスなど若者たちのパワーが炸裂、また、池の周り約一万本の「狭山池生誕祝祭」の灯火輪は見事でした。被災者の気持ちを考え打ち上げ花火は中止されま

さやま池まつり



したが、今回は「心は共にある」の文字が浮き上がり感動を呼びました。

時折雨の降る中、約三万人が訪れた二日目は、地元中学校と狭山高校吹奏楽による「プラス・フェスティバル」で始まり、和太鼓、舞踊、十周年を記念して、よさこいソーランも披露されました。

参加した子どもたちは、手漕ぎボートや、はしご車、白バイに乗り込んで喜んでいました。模擬店もあり、たくさんの方が連休の一時を過ごしていました。

東日本大震災への 支援報告

大阪狭山市社会福祉協議会では、三月十六日より一週間、宮城県社会福祉協議会に職員を派遣し、支援にあたりました。

震災から五日が経過していましたが、仙台市内は、電気・水道は復旧したものの、ガスは復旧しておらず、お湯も暖房も使えない状況でした。

生活必需品が不足し、コンビニやスーパーには、雪が舞う中、長蛇の列ができていました。特にガソリン不足が深刻で、二日間かけてようやく二十リットルを給油できる状況でした。

私の任務は、宮城県下で設置が進んでいた災害ボランティアセンターの状況把握と設置支援、活用資材の調達でした。



場場で賑わいました。多くの模擬店の中でも食べ物、模擬店は昼過ぎには完売し、青空の下で家族仲良く食事をする姿が多く見られました。また、体験コーナーでは、子どもたちで長蛇の列ができ、何度も列に並び直す子もいて最後まで切ることがありませんでした。

毎年「ごどもの日」に行われている施設の無料開放。たくさんの方の協力があって、本当に大盛況の一日でした。

宮城県下三十五の市町村のうち、当時、十二の市町村で災害ボランティアセンターが設置されていました。運営は外部からの支援ではなく、住民同士の助け合いの輪で行われていました。一部報道では、「どうしてボランティアを受け入れないのか」と指摘する声もありましたが、活動をしていただくすぐ横の瓦礫の下に遺体があるかも知れず、また、車を使って来県され、給油すると、地元住民の生活に大きく影響するため、積極的な受け入れは行いませんでした。

また、活動用資材(スコップや土嚢袋等)を日常より備蓄していても、今回のように津波で施設ごとさらわれてしまえば、現地で資材を調達することはできません。そこで、私たちは必要資材を調査



し、全国社会福祉協議会のネットワークで、全国より活動用資材を発送していただきました。

被災地域が広く、また、津波により家屋などすべてを失うケースが多く、長期的・継続的な支援が必要でした。

今後とも皆様の暖かい支援・思いを被災地に届けていただければと思います。(報告者 松井)

東日本大震災のため、関東地方で計画停電が実施されてきた。家庭の電力需要は全体の四割。電力消費がピークに達する夏場に向けて生活を見つめ直し、節電意識を高めていくことが重要だ。

*エアコンの設定温度を上げ、扇風機を併用する。

夏場に最も電力を使うのがエアコンです。設定温度は二十八度を基本とし、出かける十五分前には電源を切る。扇風機と併用すると体感温度が下がります。月に二回フィルターを掃除することで、よりいっそう冷却効果が上がります。

*カーテンを使い、直射日光をさげろ。

夏は屋外の熱気が、窓ガラスから入ってきます。日差しをカットする遮光カーテンやレースカーテンを利用するとういでしょう。また、ヘチマやジーヤ、アサガオなどを庭やベランダで育て、「緑のカーテン」をつくることもオススメです。

ほのぼのメモ

～はじめよう! 今、私たちにできること～

*コンセントからプラグを抜き、待機電力を抑える。

家庭で消費される電力の約一割が待機電力だといわれています。こまめに主電源を切り、コンセントからプラグを抜くように心がけましょう。時計機能がついている電化製品は、待機電力の消費量が高いので、特に意識しましょう。

*冷蔵庫の開閉を減らし、冷却効果を高める。

飲み物を飲む回数が増えると、冷蔵庫の開閉回数が増えます。夏場は魔法瓶に氷と冷たい飲み物を入れ、テーブルに置いておきましょう。計画停電の際は、ペットボトルの水を数本凍らせて、冷蔵庫の上段に入れば、冷却効果も上がります。

節電に臨む姿勢の根本になるのは、「他者への思いやり」だと思えます。家庭という一番身近な空間で、社会のため、人のためにできる取り組みが節電です。

編集後記

三月十一日。いきなり親を失った子どもたち：行方不明の我が子：捜す親たち：家も仕事も家族も：そして大事な思い出の品も無くなった人たちに「頑張ってください。」なんて簡単に言えません。悲しくて胸が痛みます。でも気持ちを強く持つて負けないでください。みんな応援しています。これからますます全国の人が見守ってくることでしょう。復興される日が一日でも早く来ることを祈っています。

そのうち私たちの町にも震災がやってくるかもしれません。とても不安です。その為にも日頃から備えをして、家族とよく話し合っておくことが大切だと思います。(鳥山)

